

2015年度環境活動レポート

(対象期間：2015年4月～2016年3月)



三同建設株式会社

作成日： 2016年4月28日

□ごあいさつ

環境方針 ＜環境理念＞

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
2. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ①電力及び燃料の二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）
 - ②廃棄物排出量の削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）
 - ③水道水使用量の削減(水資源の保全)
 - ④環境に配慮した製品・資材の購入を推進します
 - ⑤施工時の環境配慮を推進します
3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。
4. この環境方針は、全従業員に周知・徹底します。

制定日： 2014年4月1日

三同建設株式会社
代表取締役社長 細川 恵吾

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
三同建設株式会社
代表取締役社長 細川 恵吾
- (2) 所在地
本社 大阪府大阪市千代崎2丁目15-15
東京支店 東京都中央区京橋1-14-4京橋TSビル
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 田中 正浩 TEL：06-6584-5528
連絡担当者 臼谷 恵幸・豊森 淳平 TEL：06-6584-5528
- (4) 事業内容
解体工事業
- (5) 事業の規模
売上高 53.5億円 (2015年度)
- | | 本社 | 東京支店 |
|-------|---------|------|
| 従業員数 | 53 | 5名 |
| 延べ床面積 | 758.31㎡ | 45㎡ |
- (6) 事業年度 4月～3月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 三同建設株式会社
サイト： 本社、東京支店
対象外： 無し
活動： 鋼構造物解体工事業

□主な環境負荷の実績（全体）

項目	単位	2013年	2014年	2015年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	190,228	158,595	151,146
廃棄物排出量				
一般廃棄物量排出量	トン	1,653	1,615	911
産業廃棄物排出量	トン	354	485	3,412
総排水量	m ³	11,562	7,027	4,335

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.514 CO₂/kWh
※産業廃棄物排出量の増加に関しては元請現場における解体工事内容により増加。

口環境目標及びその実績

(1) 全体（東京支店を含む）

項目		年度	基準年 (2013年)	2015年 通年		2016年	2017年
			(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		58,686	57,805 98.5%	37,959 66%	55,751 95%	52,817 90%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		127,662	123,830 97%	112,371 91%	122,553 96%	121,277 95%
発電用燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		3,880	3,763 99%	816 22%	3,685 97%	3,608 95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		190,228	185,398	151,146	181,989	177,702
一般廃棄物の削減	kg 基準年比		1,653	1,628 99%	911 56%	1,465 90%	1,302 80%
産業廃棄物の削減 (建設混合廃棄物)	トン 基準年比		354	349 98.5%	3,412 978%	347 98.0%	343 97%
産業廃棄物の削減	トン 基準年比		0	0	416	408 98%	395 95%
節水	m ³ 基準年比		11,562	11,213 97%	4,335 39%	10,977 95%	10,751 93%
グリーン購入			全体購入費の15%	全体購入費の15%	全体購入費の21%	全体購入費の20%	全体購入費の25%
近隣への環境配慮				事務所欄・現場欄を参照	事務所欄・現場欄を参照	事務所欄・現場欄を参照	事務所欄・現場欄を参照

※発電用燃料に関しては元請現場での使用により大きく変動するので2013年度基準値で据え置く。
 ※産業廃棄物(建設)の2016・2017年度の目標値は2013年度2014年度実績の平均値をもとに算出。
 ※電力・節水に関しては2013年度基準値で据え置き様子を見る。
 ※グリーン購入は2014年実績を基準に置く。

(2) 事務所（東京支店を含む）

項目		年度	基準年 (2013年)	2015年 通年		2016年	2017年
			(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		58,686	57,805 98.5%	37,959 66%	55,751 95%	52,817 90%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		32,896	31,908 97%	33,971 106%	31,579 96%	31,250 95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		91,582	89,713	71,930	87,330	84,067
一般廃棄物の削減	kg 基準年比		1,653	1,628 98.5%	911 56.0%	1,465 90%	1,302 80%
産業廃棄物の削減	kg 基準年比			0	416	408 98%	395 95%
節水	m ³ 基準年比		292	283 97%	226 80%	277 95%	271 93%
グリーン購入			全体購入費の15%	全体購入費の15%	全体購入費の21%	全体購入費の20%	全体購入費の25%
近隣への環境配慮 (環境に配慮した施工計画の作成・作成率100%順守)			100%	100%	100%	100%	100%

※産業廃棄物については2016年以降は2015年度実績を基に目標値を設定。
 ※電力・節水に関しては2013年度基準値で据え置き様子を見る。
 ※グリーン購入は2014年実績を基準に置く。

(3) 現場（東京支店を含む）

項目		年度	基準年 (2013年)	2015年 通年		2016年	2017年
			(基準)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		94,766	91,922 97%	78,400 85%	90,974 96%	90,027 95%
発電用燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年比		3,880	3,763 97%	816 22%	3,685 95%	3,608 93%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2		98,646	95,685	79,216	94,659	93,635
産業廃棄物の削減 (建設混合廃棄物)	トン 基準年比		223 (2013年)	349 98.5%	3,412 978%	347 98%	343 97%
節水	m ³ 基準年比		11,270	10,930 97%	4,109 38%	10,700 95%	10,480 93%
近隣への環境配慮 (低騒音・低振動型重機の 完全使用)			100%	100%	100%	100%	100%

※発電用燃料に関しては元請現場での使用により大きく変動するので2013年度基準値で据え置く。

※産業廃棄物の2016・2017年度の目標値は2013年度2014年度実績の平均値をもとに算出。

数値目標は変動が激しい数値で有る為、予定通りで設定。

※電力・節水に関しては2013年度基準値で据え置き様子を見る。

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) 事務所

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価(結果と次年度の取組内容)
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	◎		
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	継続	室内温度にムラが生じる為、空調温度の適正化が難しい状況。2016年7月初旬に空調設備を入れ替え予定。それ以外に関しては社内に浸透しており、よくできている状況。
・不要照明の消灯	◎	継続	
・不要時のPC電源OFF	○	継続	
・クールビズ、ウォームビズの推奨	◎	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	△		
・エコドライブの実践	△	継続	事務所近辺の移動に関しては公共交通機関の利用を推奨している。現状でエコドライブに関しては更なる啓発が必要である。
・積載オーバーをしない	○	継続	
・適正な車両整備	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○		
・分別の徹底	○	継続	分別に関しては意識がさらに向上している。ゴミの重量計測については大阪と東京共に実測にて計測。
・重量把握	◎	継続	
産業廃棄物の削減			
数値目標	○		本年度は産業廃棄物が発生。適正に処理・マニフェストを発行し、管理を行っている。
・発生量の把握	○	継続	
節水			
数値目標	◎		
・節水シールの貼り付け	○	継続	節水意識は昨年同様に向上してきている。引き続き節水意識を高めていく。
・手洗い時、洗い物における日常的な節水の励行	○	継続	
グリーン購入			
・事務用品のグリーン購入の推進	○	継続	さらに購入比率を向上させるようにする。
近隣への環境配慮			
・環境に配慮を行った施工計画書の作成	○	継続	環境に配慮を行った施工計画書の作成率を100%で保てるようにする。

(2) 現場

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価(結果と次年度の取組内容)
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	◎		
・エコドライブの実践	○	継続	数値目標を達成。次年度も達成できるように不必要な車の使用を控えるようにしていく。
・積載オーバーをしない	◎	継続	
・適正な車両整備	○	継続	
発電用燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○		使用のある月と無い月があった。次年度は年間使用料から発電用燃料の目標値を正確にする。
・不要時の停止	○	継続	
産業廃棄物の削減			
数値目標	×		数値目標を達成できず。可能な限りの分別を啓発していく必要が有る。
・発生量の抑制	△	継続	
節水			
数値目標	○		数値目標を達成。現場数や稼働状況により大きく変わる項目であるので、予定通りの活動を行う。節水意識の向上をさらに高めていく。
・無駄な使用を無くす	○	継続	
近隣への環境配慮			
・低騒音・低振動型の重機の完全使用	○	継続	低騒音・低振動型の重機の完全使用を継続して行う。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属片、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	特定建設作業
大気汚染防止法	特定粉じん排出作業・石綿排出作業
オフロード法	バックホウ、ブルドーザー、フォークリフト
フロン排出抑制法	業務用空調機
建設リサイクル法	解体工事
家電リサイクル法	電化製品

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

認証登録より1年が経過し、本活動に対し各社員が積極的に活動できている。
 節電による経費の削減にも繋がっており、社員同士のコミュニケーション増加にもなっている。
 今後も活動を継続し、環境に優しい解体業者としての地位を確立できるようにしていく。